

基本方針3 県民の生涯にわたる学びへの貢献

・定量評価（5=100%以上 4=90～100% 3=80～90% 2=70～80% 1=70%未満）

・総合評価（A＝成果を上げている（4.5以上）、B＝順調に進んでいる（3.5以上4.5未満）、C＝概ね順調に進んでいる（2.5以上3.5未満）、D＝順調に進んでいるとはいえない（1.5以上2.5未満）、E＝事業の見直しが必要（1.5未満））

項目		具体的内容	指標	目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	計	達成率	自己評価	総合評価	協議会意見
県民の読書環境の整備	県民の読書環境の整備	・利用しやすいレイアウト変更等 ・資料の充実 ・電子書籍サービスの充実 ・読書バリアフリー環境の充実	入館者数	400,000人	○ 前年度に引き続き、SNSによる情報発信の更新頻度を上げるとともに、電子書籍サービスの利用をきっかけに直接来館利用にもつながるよう、電子書籍の体験会では図書館サービス全般について広く説明を行った。 ○ 利用者満足度の向上のために、館内利用環境の整備を図りながら、目標の達成を目指した。	288,044人 (前年度実績315,342人 対前年度比91%)	達成率72% 評価（2） 70～80%	○ 受変電設備更新工事や停電による臨時休館があったほか、通常休館日である月曜日が祝日と重なった場合の振替として、大多数の県と同様に翌火曜日を休館とすることし、休館日が増えたため入館者数は目標に届かなかった。（開館日1日当たりでは対前年度比99%） ○ 今後も、従来の図書館サービスに加えて電子書籍サービスや、コロナ以降控えていた連携イベント、ギャラリーや閲覧室内展示等をPRし、来館利用者の増加を目指して取り組んでいきたい。	D	○ 「入館者数」については変電設備の故障による休館等もあり、目標値には届いていないが、1日あたりでは前年比99%と健闘をしている。入館者の目標値が高いので、実情に合わせた目標値の変更も今後は検討をしていただきたい。 ○ 県立図書館の役割は、所在地から離れている県民に対しても図書館サービスを提供することだと思う。入館者数や個人貸出冊数の目標達成に拘りすぎると、新潟市在住の一部の利用者へのサービスに留まるのではないかと。 ○ 入館者数・貸出し数は特殊要因があるため、機械的評価に適しない気がするので、特例として評価外としたらどうか。 ○ 「入館者数」については目標が高すぎるかと思います。 ○ 入館者・貸出数とも目標値を割っているが、人口減少、高齢化、またフリーペーパーなども含め情報があふれている時代となっていることから、ある程度の減少はやむを得ないかと考える。 ○ 来館者数は近隣の県立の施設との連携など検討してみても良いのでは。イベントに合わせた特集を組む。出張図書館で隣の図書館にも足を運ぶなど(恐竜絵本・図鑑・星・・・)。 ○ 県民向けに、図書館活用講座など行えると利用促進になる気がした。
			個人貸出冊数	415,000冊	○ 資料費が年々削減されているが、今年度も限られた予算の中で効果的・効率的な選書に取り組むとともに、閲覧室展示では時事的なテーマの展示や県各所属との連携展示を積極的に行って、資料の利用促進を図った。 ○ 厳しい予算状況ではあるが、市町村図書館から購入リクエストがあった場合は、県民のニーズに応えるため可能な限り購入するよう努めた。	364,686冊 (前年度実績416,761冊 対前年度比88%)	達成率88% 評価（3） 80～90%	○ 資料収集方針に沿って、より効果的・効率的な選書に取り組むとともに展示等による資料のPRを行ったが、資料費削減による新刊購入冊数の減少の影響が大きかった。 ○ 今後も、来館利用者の興味を惹き、資料を手にとってもらえるよう展示のテーマや見せ方をより工夫して所蔵資料の有効活用を図るなど、資料の有効活用に取り組んでいきたい。	C	○ 「個人貸出冊数」は入館者数よりも前年度比が低くなっており、資料費削減による新刊購入費の減少が直接的に影響している。県民に対して信頼性のある情報を的確に提供するためには資料費の増額が必須と考える。次年度以降の資料費の増額を強く求めたい。 ○ 県立図書館の役割は、所在地から離れている県民に対しても図書館サービスを提供することだと思う。入館者数や個人貸出冊数の目標達成に拘りすぎると、新潟市在住の一部の利用者へのサービスに留まるのではないかと。（再掲） ○ 入館者数・貸出し数は特殊要因があるため、機械的評価に適しない気がするので、特例として評価外としたらどうか。（再掲） ○ 入館者・貸出数とも目標値を割っているが、人口減少、高齢化、またフリーペーパーなども含め情報があふれている時代となっていることから、ある程度の減少はやむを得ないかと考える。（再掲） ○ 県民向けに、図書館活用講座など行えると利用促進になる気がした。（再掲）
			電子書籍閲覧回数	36,000回	○ 昨年度に引き続き、県内各所で県民向けの体験会を開催した。新潟市民芸術文化会館等のホールにも出向き、普段図書館を利用していない県民へ向けての周知にも取り組んだ。また、館内イベントや県内図書館職員の会議・研修会の際にも、電子書籍サービスのPRを行った。 ○ 県立学校に向けたサービスも昨年同様に実施しており、今年度は私立高等学校に対しても、学校向け電子書籍サービスの提供を開始した。 ○ トップページの本棚のテーマを3か月に1度変更した。また、12月に新着コンテンツを導入した際は、新着からのおすすめコンテンツを紹介したほか、HPのお知らせ欄やメールマガジン、館内配布チラシでもPRを行った。	20,372回 (前年度実績24,653回 対前年度比83%) ※令和6年7月11日よりサービス開始	達成率57% 評価（1） 70%未満	○ 受変電設備更新工事や停電による臨時休館中は、サーバーが稼働せずサービスが提供できなかったこともあり、目標に届かなかった。 ○ 体験会を開催する度に利用登録の申請があったが、閲覧回数の増加には直接結びつかなかった。オンラインでの利用登録申請も継続してあることから、コンテンツの魅力の発信等を通じて、サービスの継続利用につなげていきたい。 また、体験会ではサービス自体を知らない県民の方が大半であったため、全県的にサービスの再周知を行いたい。 ○ 新規コンテンツの購入にあたり、県財政当局との協議に時間を要し、購入・公開が予定通りに実施できず、広報も一部しかできなかった。未実施の広報を来年度に展開できるよう取り組んでいきたい。 ○ 学校向けの出張説明会を実施し、学校図書館現場の意見を聞くことができたため、今後の学校向けサービスの充実に活かしていきたい。	E	○ 「電子書籍閲覧回数」についても新鮮なコンテンツがないと利用が伸びないため、図書と同様に電子書籍にも継続的な資料費の確保が必要である。県内の図書館との電子書籍コンテンツの統一の施策に期待をしたい。 ○ 電子書籍サービスは、県立図書館から遠くに離れた県民にも利用しやすい。県民のニーズに合った電子書籍コンテンツを導入してもらいたい。 ○ 電子書籍貸し出しサービスの更なる活用促進に期待する。
			県内の読書バリアフリー環境の充実		○ 県視覚障害者情報センターと連携して市町村図書館職員向けの障害者サービス研修を行い、県内における障害者サービスのボトムアップを図った。 ○ 資料費の限られる中で、読上げ、白黒反転表示等のバリアフリー機能を持つ電子書籍や大活字本、LLブック、触る絵本等の障害者サービス用資料の充実を図った。 ○ 電子書籍の体験会では、ニーズに合わせてサビエのPRも行った。 ○ 民間の福祉関連イベントに出向き、障害者サービスのPRを行った。			○ 対面朗読サービスや音声デジラーが継続して利用されている。今後も広報を続けて普及を図っていく。 ○ 利用者が視覚障害の有無にかかわらず、触る絵本を借りて行くような状況も生まれている。障害者サービスへの理解・普及のためにも、引き続き資料を充実させていきたい。		○ 市町村図書館と連携してバリアフリー環境の推進と充実を求む。
	県民の調査研究活動の支援	・調査相談（レファレンス）機能の向上 ・県民へのPR	レファレンス協同データベースの登録件数	40件	○ 利用者から寄せられた調査相談から、主に郷土に関するテーマなど、県民の調査研究活動に資するものや関心が高い事例を精査して登録を行っている。 ○ 調べ方マニュアルについても、新たに登録を行う予定にしている。	42件 (前年度実績44件 対前年度比95%)	達成率105% 評価（5） 100%以上	○ スケジュール通りに作業を進め、登録事例を選定・精査しつつデータを作成した。県民の調査研究活動を支援するため、引き続き目標件数を達成するよう取り組んでいきたい。	A	○ 「レファレンス協同DB登録件数」は過去の掲載事例の更新をしっかりと行っており評価できる。次年度は新規の事例登録も期待したい。

		具体的内容	指標	目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	計	達成率	自己評価	総合評価	協議会意見
県民の読書環境の整備	読書による子育て応援	・子ども向けイベントの実施 ・利用環境の整備	絵本、児童書、紙芝居の貸出冊数	79,000冊	○ こども図書室内に、赤ちゃん絵本のコーナーを新設した。室内はマット敷で寛げるようになっており、ゆったり絵本を選んだり、読み聞かせを楽しむことができる空間を提供している。 ○ ボランティア及び職員による定例の読み聞かせイベントの継続実施に加え、新規の図書館利用増を目指して、こむすびルーム関連のイベントに合わせて、職員によるおはなし会を開催した。	70,632冊 (前年度実績77,650冊 対前年度比91%)	達成率89% 評価（4） 90～100%	○ 資料費減によって所蔵資料全体の魅力が低下しているため、こども連れの親を含めた入館者数や個人貸出冊数も減少しており、目標達成が困難な状況になっている。図書館利用の全体的な減少に歯止めをかけることはできなかった。 ○ こむすびルーム開設イベントをきっかけに、利用登録につながった事例もあった。また、開設イベントに合わせて開催したおはなし会は、通常の倍以上の参加があった。 ○ 次年度以降も、こむすびルームやイベントと連動した児童サービスの充実を図っていきたい。	C	○ 「絵本、児童書、紙芝居の貸出冊数」については、「こむすびルーム」や「赤ちゃん絵本コーナー」の設置などの取り組みがなされており、その点は評価できる。しかしながら目標値に届かなかったので、資料の充実のための資料費確保などを検討していただきたい。 ○ 読書による子育て支援については、幼稚園・保育園へ出向いてのお話会や図書貸出などできないものか。
	SNSによる情報発信	・投稿内容の充実 ・効果的な情報発信	SNSの投稿回数	120回	○ SNSの特性を活かした投稿を工夫し、フォロワーの増加や県内図書館のフォロー、リポスト機能等による情報の拡散・周知に取り組んだ。	136回 (前年度実績123回 対前年度比111%)	達成率113% 評価（5） 100%以上	○ イベント情報や電子書籍サービスのPRをSNSを活用して発信するなど、若年層に向けた周知に取り組んだ。 ○ 次年度以降も、図書館の情報発信に積極的に取り組んでいく。	A	
県立図書館職員の能力の育成	職員の研修機会の充実	・研修に参加しやすい環境の整備 ・研修成果の共有と自己研鑽	外部講師による研修の参加回数	40回	○ オンライン研修を活用して、臨時休館期間中には研修受講を奨励するなどして、目標達成に努めた。 ＜主な実績＞ ・にいがたPPP/PFI研究フォーラム ・2024年度サビュ研修会（オンライン） ・障害者サービス担当職員養成講座（入門）（オンライン） ・関東地区公共図書館協議会研究発表大会（集合、オンライン） ・こども読書レベルアップ研修会 理論・知識編（オンライン） ・特別研修「読書のバリアフリーをすすめるために」（オンデマンド） ・こども読書レベルアップ研修会 実践・演習編 ・未来の図書館研究所オープンレクチャー ・国立国会図書館資料保存研修 ・JLA認知症バリアフリーオンライン講座 ・全国図書館大会 ほか	50回 (前年度実績43回 対前年度比116%)	達成率125% 評価（5） 100%以上	○ 全国規模の研修・会議等へもオンラインを活用して参加するなど、機会を確保して司書職員の能力向上を図った結果、目標を達成した。 ○ オンライン等を活用するなどにより、次年度以降も研修の参加機会を確保し、図書館サービスの向上を図っていく。 ○ 今後は、回数他に、スキルの向上度合い等の質的な部分も評価できる目標の設定についても、検討を行っていきたい。	A	○ 「外部講師による研修の参加回数」についても職員のスキル向上に不可欠であるがしっかりと目標値を達成しており、評価できる。
			職員が講師を務める館内研修の実施回数	4回	○ 職員が講師を務め、「レファレンス研修」「障害者サービス研修」「図書修理研修」「郷土資料研修」を実施した。	4回	100%	○ 四つのテーマのうち、希望する研修を一つ受講することで、図書館業務のスキルアップにつながった。また、講師を務める職員は、講義を行うことで知識の定着が図られ、発表のスキルアップにつながった。 ○ 一方で受講後のアンケートでは、難易度や実施方法、今後の研修テーマについて意見が寄せられ、課題が残った。 ○ 次年度計画の立案に当たっては、アンケート結果をもとに内容を改善し、県内公共図書館職員向け研修での講師となる人材を育成する。	A	○ 「職員が講師を務める館内研修の回数」についても、職員自身のスキルがないと実施できないため、職員のスキルを測る上で良い指標といえる。目標値も達成できており評価できる。